

FDニュース

令和5年3月発行



今年度で第10回日本大学学生FD CHAmiT（ハイブリッド形式で開催）

【TOPICS】

- ★語学履修者増加に向け、英語・スペイン語でランゲージラウンジ開催！
- ★コロナ禍で中止が続いていた新任教員対象の授業研究を3年ぶり開催！
- ★フルブライト招聘講師による令和4年度FD講演会を開催！

FD委員会ではFDニュースを通して、より多くの教員と学生に本学のFD活動や教員の教育に対する考えをひろめることにより、本学部の教育環境改善に役立てば幸いです。

目次

[表紙（1ページ）](#)

[ランゲージラウンジ開催について（1ページ）](#)

[授業評価アンケート実施について（2ページ）](#)

[FDCHAmiT実施について（2ページ）](#)

[授業研究について（3ページ）](#)

[FD委員会より（3ページ）](#)

ご挨拶

令和4年度は、原則、対面授業を中心とした実施方法でした。令和2・3年度と授業形態が対面からオンラインへと大きく変わりましたが、その間に得られたオンラインでの教育効果は、今後も状況に応じて有効活用されることが期待されます。さて今年度の取組みとして、ランゲージラウンジの開催、フルブライト招聘講師によるFD講演会や新任教員対象の授業研究が実施されました。授業研究は3年ぶりの再開となりましたが、授業の改善や質の向上を図る良い機会となりました。

また、授業評価アンケートと結果に基づく次年度に向けた「授業改善計画書」の作成も実施予定です。一方、「学生FDCHAmiT」では、学部に対して「学部提案書」が作成され、その提案書に基づき、事後ミーティングを行いました。教職員と学生が活発に話し、学部提案書に基づく学生への回答書も完成しました。今回のFDニュースを通して、本学のFD活動や教員の教育に対する考えの理解を深め、教育環境改善に繋がることを願っています。

FD委員会委員長 蓼沼智行

「ランゲージラウンジ」開催



今年度は英語・スペイン語！次年度以降はその他の言語も！？

語学教育検討委員会主催で「ランゲージラウンジ」が開催されました。同委員会では、語学科目の履修者が減少傾向であることを受け止め、来年度の「各言語Ⅴ～Ⅷ」の事前登録期間前に「ランゲージラウンジ」と称し、語学科目の履修者の増加を図る企画を実施しました。既に同様の取り組みは他大学でも実施している例があり、本学部も検討を重ねて実施することになりました。

今年度は、「英語」と「スペイン語」の2言語で実施し、会場には多くの学生（1・2年生が中心）が集まり、担当教員（英語：熊木先生、スペイン語：角田先生）や先輩学生に対する相談やアドバイスを求めている姿が印象的でした。

コロナ禍で学生間の交流が無くなり、困ったときの相談相手や一緒に学ぶ仲間が増えず、学生にとっては苦しい期間が続いていた中での今回の企画でした。参加学生の中には、悩みが解決して安堵した様子や今後のモチベーションがアップした学生、次年度「Ⅴ～Ⅷ」の履修を決心した学生が見受けられました。今回の企画は、令和5年度からの100%対面授業に向けても明るい兆しが見えたのではないのでしょうか。

主催の同委員会角田委員長からは、「スペイン語では全4回実施したが、回を増すごとに参加者が増えた。このような企画の重要性を再認識し、定期的に実施することでさらに多くの語学履修者が増え、本学部の語学教育の特徴が一層顕著に表れるのではないかと。その他の言語の開催も検討したい」とコメントをいただきました。

～各ポスターと当日の様子～



英語のランゲージラウンジは全2回実施。



英特クラスの学生が相談に応じる



スペイン語のランゲージラウンジは全4回実施



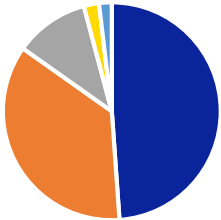
角田先生がスペイン語の魅力を伝える

後学期授業評価アンケート集計結果

■5強くそう思う ■4そう思う ■3どちらでもない
■2そう思わない ■1全く思わない



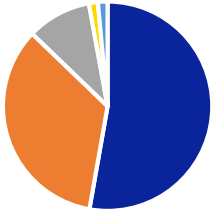
授業時間外の学修(内容, 方法等)について, 担当教員から具体的(シラバスに明記を含む)に示されましたか。
平均→4.28(学部), 4.27(短大)



「強くそう思う」49%, 「そう思う」36%という結果になりました。この2つの選択しで85%を占める結果となり, 時間外の学修に対する具体的な提示があったことがわかる結果となりました。

授業内やメール対応での教員の態度, 言葉遣いは適切でしたか。

平均→4.48(学部), 4.59(短大)



令和4年度も原則対面授業であったものの, 並行してオンライン授業が行われる中, 柔軟な対応をしていただきありがとうございました。学生からの評価も他の設問に比べて高い評価になっています。

この授業科目に関し, 授業時間外(授業終了直後を含む)に, 担当教員に対し質問等をしましたか。
平均→3.28(学部), 3.33(短大)



この結果から一定の学生が授業時間外に担当教員に対し, 質問等をすることがわかりました。上記項目のとおり, 教員の対応が高く評価されており, 質問した学生の満足度は高かったものと推測できます。

★NEW★

令和4年度後学期授業評価アンケートからは, 「授業に対する図書館の利用目的」など新たにアンケート項目を設けました。また, 自由記述欄を設け, 学生から具体的な声が届くようになりました。

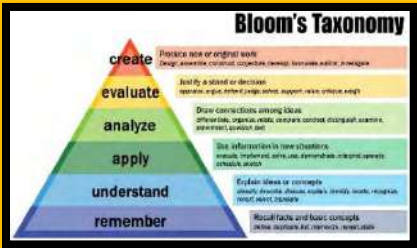
【自由記述欄で届いた回答を一部紹介】

「スペイン語に対してより深く興味を持つことができとても学ぶことの多い授業でした。また, 日常でもスペイン語に対する関わりも多くなったように感じます。」

「生徒の理解度を確認しながら, 授業を進めたりテストを作成したりしていたので, やりやすかったです。初めて学ぶ言語だったので難しい部分もありましたが先生の授業資料はとても分かりやすかったです。」

フルブライト 招 聘 講 師 の ケリーネルソン氏 (アリゾナ州立 大学) によるFD 講演会を開催！

令和4年7月14日(木)専任教職員会終了後に, 1523教室でフルブライト招聘講師:ケリーネルソン氏(アリゾナ州立大学)によるFD講演会を開催しました。演題は"Bloom's Taxonomy: How American Faculty Talk About Learning"で Bloom's Taxonomy は, 1956年にアメリカの教育心理学者が説いた学習理論の一部で, 「受け取った知識をどう使っていくか」ということを重視しながらカリキュラムデザインをする手法として用いられているもの。アメリカの教育現場で教育に関わる人たちがこの手法に基づき, 学びについてどのように話し合っているのか実体験に基づいて講演いただきました。



(上) 講演の中で紹介した教育目標の分類

(下) 講演者: ケリーネルソン氏

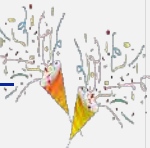


日本大学 学生 FD CHAmmiT 開催

令和4年10月16日(日)ハイブリッド開催



今年で 10 回目の開催！



本学のより良い教育の在り方を学生, 教職員が話し合う「学生FDCHAmmiT」が, 令和4年10月16日(日)にハイブリッド形式で開催され, 日本大学通信教育部が対面実施会場となりました。

第10回目となる今年度のテーマは, 「あなたにとって、大学とは何ですか?」。コロナ禍を経験した今だからこそ, 改めて大学で学ぶ意義等について話し合い, 自身が思い描いた大学生活の理想と現実のギャップについて, 意見を出し合うことを目的とし, 活発に議論が行われました。

参加者は, 国際関係学部生6名, 短期大学部生2名, 教職員6名の計14名が参加しました。今後参加者とミーティングを行い, 「学部提案書」に基づき, 回答書を作成いたします。

CHAmmiTに
参加してみて

国際関係学部

国際総合政策学科



矢嶋 敏朗
准教授

令和4年10月16日(日)にハイブリッド形式で開催された第日本大学学生FDCHAmmiTに
対面参加しました。

文系～理系まで日大ならではの様々な学びをする学生の多様な価値観に触れることができとても有意義な時間でした。本学は日本最大の大学であり, その“多様性”を活かして社会貢献すべきだと再認識した場となりました。



「学部提案書」に基づく事後ミーティング実施→学生の訴えを反映した授業改善へ

令和4年度学生FDCHAmmiTでの学部提案書に対する事後ミーティングを令和5年1月31日(火)にオンラインで実施しました。学生から改善を求められた主な項目は以下のとおりになります。

- ①設備関連→Wi-Fi環境の整備, 学内へのテナント, 教室操作卓のリニューアル
- ②学生生活→富桜祭以外の学内イベント実施の検討
- ③留学→今後留学はできるのか, 留学生が海外から本学部に来ないのか
- ④地域連携→静岡県の特産を生かした授業等はできないか
- ⑤授業実施方針→全面対面が決定したが, オンライン授業の継続はできないのか など

学部提案書 (国際関係) 学部		
①設備の整備の必要性	②学生生活「理想の大学」にするための提案	③留学「理想の大学」にするための提案
対面とオンラインの評価基準が異なり, 対面参加の利点がない。 パワーポイントや授業資料を授業内で確認する際にスクリーン共有が難しい。Wi-Fiの接続が安定しない。 生協のコミュニケーションが足りない。 友人関係が遠まわしなまま。	①授業の改善が望ましい。教員と学生の距離が近い。授業内容が充実している。オンライン授業も活用できる。 ゼミに入りたいという希望がある。ゼミの人数を増やしてほしい。 学内イベントを実施してほしい。 ユニバが履修登録の間違いを訂正してほしい。 留学生の増加(フランス人など)を歓迎してほしい。 他学部との交流が欲しい。	日本一の規模や多様な学びを活かすための学部側からの支援(授業/研究系+コミュニティ系)とOB/OGとの交流拡大。 フロンティア以外の学部との交流がほしい。
④地域連携の必要性 ⑤授業実施方針の検討	今後のハイブリッド授業も広く実施してほしい。新しいシステムを導入してほしい。現状では難しい。オンライン授業の活用が難しい。授業内容の充実が難しい。授業内容の充実が難しい。	⑥留学の必要性 ⑦留学の必要性 ⑧留学の必要性

実際の学部提案書

★ 3 年ぶりに開催 ★

新任教員対象 授業研究

授業参観を通じて自らの授業に活かす。



食物栄養学科：小山先生の「フードスペシャリスト論」を参観する FD 委員の様子

[illegible]

新任教員の研究報告書

試験者氏名						
氏名	姓	名	イ	ロ	ハ	氏名
試験科目						
科目名		試験時間		日	月	年
① 次の(1)～(5)のうち、1問は必ず解答する。残りの4問は任意で2問以上を解答せよ。 1. α, β の両方を 0 とし、α, β の両方を 1 とし、α, β の一方を 0 かつ一方を 1 とするの3通りの場合分けをそれぞれ $\alpha = 0, \beta = 0$ とし、$\alpha = 1, \beta = 0$ とし、$\alpha = 0, \beta = 1$ とし、$\alpha = 1, \beta = 1$ とする。 2. 関数 $f(x)$ が x の値が 0 のとき $f(0) = 1$ となるように、$f(x)$ を定めよ。 3. 関数 $f(x)$ が x の値が 0 のとき $f(0) = 1$ となるように、$f(x)$ を定めよ。 4. x の値が 0 のとき $f(0) = 1$ となるように、$f(x)$ を定めよ。 5. x の値が 0 のとき $f(0) = 1$ となるように、$f(x)$ を定めよ。 6. x の値が 0 のとき $f(0) = 1$ となるように、$f(x)$ を定めよ。 7. x の値が 0 のとき $f(0) = 1$ となるように、$f(x)$ を定めよ。 8. x の値が 0 のとき $f(0) = 1$ となるように、$f(x)$ を定めよ。						

FD 委員の研究報告書

FD 関連情報

教学推進センターを設置

全学的視点から統括・調整

教学推進センターの設置が昨年 10 月 7 日の理事会の審議を経て決定しました。同センターは本学の教学に関する委員会や学長直属の臨時委員会で検討した具体的な事項を全学的視点から統括・調整し、委員会間の連携を深めて各種教学施策を推進します。

令和5年度授業実施方針

100%対面授業再開へ！！

令和5年度は100%対面授業が再開となります。新型コロナウイルス感染症の影響により、100%対面授業にたどり着くのに紆余曲折を経てきました。キャンパス内が多くの学生で賑わう姿が待ち遠しいです。

教学 DX 委員会が第一次中間答申

全学共通システム構築

教学 DX 戦略委員会はデジタル技術を利用して学びの活性化と教学に関する業務の効率化を図る基本方針をまとめました。全学で利用できる情報提供システムと学修支援システムなどを2023年度中に構築、複数学部で実証実験を行い2025年に共用開始の方向で検討されています。豊富なデータから在学生や教職員のニーズを具現化、オーダーメイド型の教育を提供します。

令和5年度授業改善計画報告書作成

学修成果の可視化に向けて

令和3年度から授業改善計画報告書の作成を依頼しています。この改善計画に対して、自己点検・評価をしていただき、令和4年度の授業評価アンケート結果や学修満足度向上調査結果と併せて令和5年度の授業改善計画報告書の作成を予定しています。ご協力の程よろしくお願いいたします。

日本大学 FD 活動について

日本大学では、FD を「自主創造の理念の下に日本大学を取り巻く外的諸要因をも分析して、学問領域単位（学科・専攻等）での教育プログラムを常に見直し、それを実行するため、教員が職員と協働し、学生の参画を得ながら組織的に取り組む諸活動」と定義しています。FD 活動を全学的に推進するため日本大学 FD 推進センターを設置し、様々な活動をしています。